

ゴルフの神様

斎藤 優作

僕は将来、プロゴルファーになる。で世界で活躍したいと思っで日々努力していきます。しかし現実には甘くないもので、中学生になっから存か存か納得のいく成績を叩せまいません。

最近日はあと一打、あと一人の壁を越えられずに悔しい思いをして、絶望的の気持ちに存りました。しかしお世話になっまいる方々か

ら日、今日、結果を出さうと焦らなくてモい、よし、高校生になった時に成績を出せるように、今やるべき事を考えなさい。というような言葉をかけて下さいました。また母も、僕の成績で一喜一憂する事なく、いつも優しいのです。父からは「スポーツはルールのあるテニカだ!! 気合いが足りないから負けるんだ!!」し、かりやれ!! と、叱咤激励をされ現実には引き戻された感じに存ります。そんな時に、ある方からこんな言葉をかけ

て頂きました。

「どの種目のスポーツにも共通して言えることですが種目ごとに必ず神様が存在します。その神様は時として見方にもなることもあり、時として試練を与えることもありです。そしてその試練は決して乗り越えることの出来る試練を与えるることにはありません。試練とはその名前の通り、壁にぶち当たった時に乗り越えられるかを試されていくわけであり、それを越えられない人には試練を与えません。

明日からの自分を信じて次の試合に向けて頑張る。頑張る。頑張る。

僕はこの話を聞いた時に、試練を与えてくれるのも、見方にもなるべくも父だと思いました。それは何となく、僕が初めて大人用のクラブを買ってもらった時、ジコニアクラブと比べた大人用のクラブはゼロが一つ多いくらい高価なものですよ。

そのお金を何とかあるために、父はそれまで大車にしていた自分の腕時計を売って、そ

のお金で僕のクラブを買ってくれました。また母も、弟が赤ちゃんだったので外に働かには行けず、毎日明け方まで内職をしたお金を僕にゴルフをさせてくれました。

僕は「一球入魂」という言葉が好きですが、僕の一球には僕だけの魂だけでなく、僕を支えてくれる沢山の人の魂が入っているのだと思えてきました。

そして現在の「絶望」を「希望」に変えてやる!!と勇気が湧いてきました。

表現や言葉の違いはあっても、僕を心配して下さる方や、面倒を見てくれる両親が僕にとっての「ゴルフの神様」です。